

第2次茨木市男女共同参画計画の見直しに関する
ワークショップ会議録

日時：平成28年11月8日（火）

12時30分～14時30分

場所：ローズWAM5階501・502号室

《大神次長のあいさつ》



《各班の話し合いのテーマが決定》

A班：女性の労働力率（M字カーブ）について

B班：DVについて

C班：男女共生センターローズWAMの今後のあり方について

D班：男性の育児について

藤井所長からそれぞれの課題の現状について説明



《ワークショップ開始》

12：47 個人で課題は何かを考える

12：52 班ごとに課題についてお互いの意見をきく

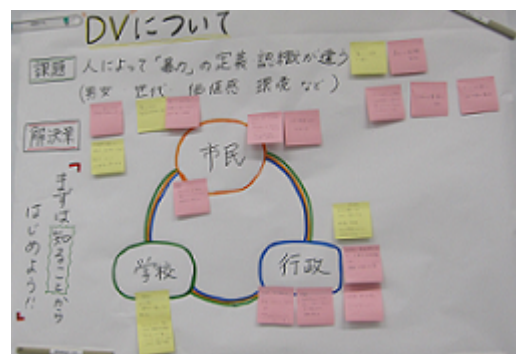


- 13 : 07 個人で解決について考える
- 13 : 15 班ごとにお互いの意見交換
- 13 : 30 発表の準備（模造紙に課題、解決方法を記載）
- 13 : 50 各班 5 分以内での発表
B 班→C 班→A 班→D 班
その都度、1 分間で藤井所長からの感想



《各班の発表内容》

B 班 「DVについて」



課題：人によって「暴力」の定義・認識がちがう（男女、世代、価値観、環境など）
例えば物理的な暴力は「暴力」と認識しやすいが、そうでないものは価値観によって差が出る。

解決：まずは知ることからはじめよう！！

【市民】・困っている人の話を聞いて、茨木市配偶者暴力相談支援センターやローズWA

Mを紹介する

- ・ 公的機関を知り利用する
- ・ まずお互いの状況（加害者と被害者）を知ること

【学校】・ どのようなことが身内からの暴力なのかを提示する

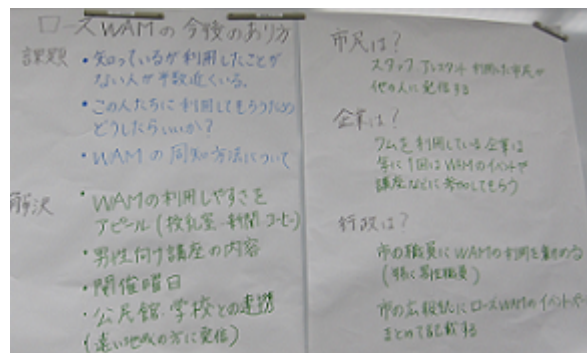
- ・ なぐる、けるだけが暴力ではなく精神的苦痛を与えることも暴力だと伝える

【行政】・ どのようなことがDVなのか提示する

- ・ 地域・学校など教育機関に働きかける
- ・ 被害者の意識調査だけでなく加害者の意識調査も必要
- ・ 加害者を減らす努力
- ・ 相談窓口のハードルを低くし困っている人に相談しやすい体制を整える
- ・ 行政の取組みをアピール、アナウンスする

感想：難しいテーマだったと思いますが、課題において「男女間、世代、価値観など人それぞれによって暴力の認識がちがう」ということを、市民意識調査をもとに分析してくれました。行政の「配偶者暴力相談支援センター」の周知などまだまだなところもあるので、改善していきたいと思います。また、図で市民、行政、学校と連携してつながっているところは、一個人の問題ではなく、社会で解決していくべき課題であるということの発信かなと思います。

C班 「男女共生センターローズWAMの今後のあり方について」



課題：知っているが利用したことがない人が半数近くいる。この人たちに利用してもらうためにどうしたらいいか。WAMの周知方法について。

解決：WAMの利用しやすさをアピール（授乳室、新聞、コーヒー）、男性向け講座の内容、開催曜日、公民館・学校との連携、遠い地域のかたへ発信

【市民】スタッフ、アシスタント、利用した市民が他の人に発信する

【企業】WAMを利用している企業は年に1回WAMのイベントや講座に参加してもらう

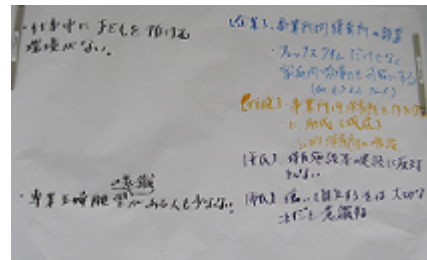
【行政】・ 市の職員（特に男性職員）にWAMの利用を勧める

- ・ 市の広報誌にWAMのイベントページをまとめて掲載する

感想：ローズ WAM は開所から 16 年経ち、ハードでもソフトでも一定見直しの時期を迎えています。知り合いや男性職員など身近な人に声をかけて WAM を利用してもらっ

たり、WAM を利用している企業に WAM のイベントに参加してもらうというのはおもしろいアイデアだと思います。さまざまな世代の方に、それぞれの課題解決に向かうような、ニーズに合った取組の必要性を感じました。みなさんのご意見を取り入れていきたいと思っています。

A 班「女性の労働力率（M字カーブ）について」



課題①結婚した家庭でまわりの家族が働くことに対してイヤがる意識の問題

解決【市民】女性の労働に対する意識改革（男女とも、子育て等）

課題②子育て世代を雇用側が雇い入れる意識が低い場合が多い

解決【WAM】セミナーなど意識改革の場を設ける

【行政】学校で社会の仕組み（男女差のない労働についてなど）を教える

課題③仕事中に子どもを預ける環境がない

解決【企業】事業所内保育所の設置

フレックスタイムだけでなく家庭内労働も可能にする（インターネット）

【行政】事業所内保育所をつくる企業に助成（減税）

公的保育所の増設

【市民】公的保育所の設置に反対しない

課題④専業主婦願望の意識のある人も少なくない

解決【市民】働いて自立することは大切なことだと意識する

感想：茨木市はM字カーブの溝が深く、個人の生き方の問題でもあるので、これを解消するにはどうしたらいいか難しい問題ですが、「女性も人生において働いて自立することは大切なことだと意識する」という意見を出していただきました。労働力や経済的な理由だけではなく、自立を価値観としてとらえるという考え方ですね。働きたい人が働ける環境を整えていくことは大事ですが、それと同時に個人の価値観や意識に働きかけるということも重要だというメッセージだと感じました。

D班「男性の育児について」



課題：

- ・ 関係性（家庭の役割分担の偏り、ライフ・ワーク・バランス、夫婦以外が子どもと関係する関係性がない、お互いのゆとりと思いやり）
- ・ 労働時間（仕事をする時間が長すぎる、子どもと過ごす時間が少ない）
- ・ 社会意識（社会に関わっている意識の高さ、お互いが幸せになるためのコミュニケーションの意識と時間→男性のほうが弱者かも）

教育（ジェンダー、男性自身の育った環境、子育てにおいて男性は女性が何を必要か知る、男女とも自立）

解決：

- 【市民】仲間づくり、夫婦のコミュニケーション、お互いの立場や主張をきく機会をつくり、理解を深める、心の教育を重視する
- 【企業】労働時間短縮（人員増員、フレックス）、育児休暇や有給休暇のとりやすい環境づくり、一斉に早く帰る日を作る、子どもが病気のとき男性も堂々として迎えにいける環境、給与の保障、男性も楽しめる育児用グッズ（抱っこひも）
- 【行政】夫婦での参加型育児教室などの開催、学校教育（男女の差、ジェンダー、自立、お金の教育）、広報、幼少期からの教育、道徳的教育（子育て育児への参加は、時間的理由のほかに、互いの思いやりの欠如があるのでは？）、何が優先順位が高いかよく精査してお金を出す、自分本位ではない意識を持つ

感想：ライフ・ワーク・バランスという言葉を出していただきました。今、仕事と子育てや介護との両立という意味で用いられる「ワーク・ライフ・バランス」から、人生において仕事や家庭、子育て、介護などをどう考えるかという意味で用いられる「ライフ・ワーク・バランス」という言葉に変化しつつあります。言葉の使い方の変化からもわかるように、仕事と家庭の両立（バランス）という観点から、人生における仕事の価値観の見直しという生き方の観点へ変化してきています。

「男性も女性も楽しんで育児をしてもらえたらいい。そのきっかけとして、男性も女性も参加できる講座を設けたらいい。」という意見をいただきました。今後、そのようなパートナー支援という視点も出していけたらいいと思います。

- ・大神次長のあいさつ

短い時間の中、活発に議論していただき、最終、見た目も美しく、また、わかりやすく、まとめていただきまして、大変有意義なものになりました。今後ともよろしくお願いいたします。